863
117

国立国会図書館　タイトル『星の林』 請求記号 863-117

ガラス使用

863-117

星の林

秋香菴國村校
鹿苑舍淋山著

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

斯ふ顯号しるあるを二師巣兆
自筆なる日行あるを海士のより裏
樵夫芸苗曲まるを漁父志るるを
子ふ玉もら知道寺ふ拾の民
且ふ山ゆ魚ふまを拾ふ
歌ふるのら帰ふ方ふ
弼ふ魚ふしまた知已ふ
情ふたに同ふ遠ふ拾を

冥ふ居士ふ世のを思ふ
遠ふのふ見ふ賞ふ
ふふふあふなふ誘を
世ふ以ふふふ眼前
巷を出ふ雪ふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
本有常住の月を
稿中ふ徒ふ往図書酬ふ

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

あかく世を勵みの
ちから偏にせつなるものを業す
ることのかうなりしかの
名誉は世間のなるを自
ら日ごとに筆を執はやも
十二支乃兎年を迎ひ故人の
うらをおしたのまれの星は林を
とく遠方忌憚ふことなく

あさあを拾ひあつめ諸彦の珠玉を
拾ひ合せ湯殿山道者年
言伝ふるまことに秋香叢
再び艸稿送る

文政丙戌年

出羽國湯岳　沙門　淋山識

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117

ガラス使用

遺稿

獨吟歌仙　半折

古巣兆

[illegible]
[illegible]の[illegible]も　旅のとまりひ
[illegible]の[illegible]の[illegible]と[illegible]く
土[illegible]　[illegible]　[illegible]
相[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]
[illegible]の[illegible]をうたてり
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

百丈足らの動く蒙子

花の雪ふぶき馬八瘦みたり

ちらほら蕭蕭ゆるる蘭藪く

次負

池水の風よ和らく塙竹新　淋山

ゆるるとたゆたふ色立葉の売　燕市

こけ蛙も無くたゆたふ物狂ひ　有圭

鯉のうねらたる伸　國村

柱掛もぬきのほりけんさ庫　柳翠

十石あるを廉を動く糸　圭

曉鳥も拾ひ稀ふ多きて　市

根律の糸は鼓うり当　翠

秋風の肩を樽ふ吉沖深　村

嘉をあるに一ト秋寝てゐん　市

淀月は傳動つ乗と静ある　圭

稀よ杉奥は歩と涼しさ　村

村の名を世のをうしき古馬屋　翠

羅七次郎の子孫の吟ぜし
色川の径中をつたひ行くもたのし　圭市
岩根ふみ雪踏わけて　村
咲ぬ花も屑家は昔語りの　翠
酒出す瓢をまくらもとに　柳フ

淋山一　燕市　四　有圭　四
國村　四　柳翠　四　華一

君子千里同風

雪二日続く梅花は寒うして　洛
幸清秋義を尊ぶ猫の恋　茂良
青柳の糸をかけ川　金菜
川とまる芹は古根も春の水　岱李
湯殿こ苔くさらに俤しき月　梅價
おもふ〳〵枝ものもの思ふ　芙九
袖乃雪ふるを拭て起ふす手れ　五芳
　　雪雄

引息の解脱まてを嘆水鶏　蒼虬

一ト木ありて花咲海ちかく梅のむ　大和　万和

梅ふるし　家を出て家を出て　河内　秉紀

清水の流家に加ふ人や　茶屋の月　浅所

おめ〳〵と弱り切りて芒より　堺　蓄笛

雪雲に移る山の梅ぞ　西あのそ　喜齋

あるとしも知く光信ぬ

手紙めくる方ぬて

稲はまるまるおとくて久し　徒山　浪花　長齋

炉ぬや山の地を弟代ぬ　星譜

見ぬ通ぬ蓋ぬ　ぬけし　ぬ　三津人

老懐

寒さをも小夜ぬ頃を枕上　魯隠

塚神にかくさむ井ぬ月ぬ　自楽

記しや梅ぬ花ぬ　泉水　祇杖

芋ぬ姿ぬ事ぬ　菴の用　眉鳳

ぬ花ぬ　ぬ　ぬ　井左

多折ぬ　ぬ　ぬ　若助

何の木ぬれ[illegible]

井眉

山堤ふか食物[illegible]

百堂

白魚[illegible]

公路

蓑[illegible]は皆[illegible]

屋烏

[illegible]

伊勢

奇渕

[illegible]曲海

省吾

[illegible]尾花

路白

秋の[illegible]

六車

[illegible]

椿堂

五月陰中寒と

名古屋

梅間

[illegible]

不轉

[illegible]

我竟

[illegible]

岳輅

[illegible]

塊翁

[illegible]

木天

[illegible]

足彦

[illegible]

少海

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

同一碑を山系に花
咲かぬ樹も大小くらべ山くらべ　月庵
進しや蕾一茎秋草　三河　卓池
秋の雨を日すがら秋の風　秋峯
夜の月を解や時雨の音　梅老
朝ぬや掃き捨へふ人数　甲斐　木芽
空也の下山善男子を舞ふて　有斐
佛弟子は質ぬは孟の水　嵐外
鈴なりのうろてえてる柳の枝　蟹守

こわるゝと一柏子の山の家　重行
大風ぬ来ぬ動すや蹴毬袋　百二
夕雲を作る仕舞ぬ湯ぬ　才馬
白雲ぬ雲ぬ無病の宮ぬ　一作
我老を空ぬ知らぬ〳〵色ぬ月　漫〻
市近の四沙汰も知らず青簾　伊豆　一瓢
惟子ぬ〳〵なぬ沙や鉢ぬ　有鱗
雲の来ぬ来ぬ松の雨　相模　方解
面白ぬ知ぬ山の色　雉啄

人を慕ふ門遠しく秋の雲　成美
鶏鳴の叩くや流す深あふ　松夫
佳ちくらや淺茅雨よ濡るの　浙江
みちを辰巳月のまちのつらしはや
ちの事ぞうまふを別れ寺ぬる　太節

昭十方刹

古く行後　正火消ぶ第ぶ　黙齋
淫ちふ式ぬ　郡り徒　雄令
ぬ山をおとりふつく梅の茶　秋耳

押ぶ行ぬ　何丸
一梅の牡丹　蕉雨
彩ぬ　玉光
芒ぬ　久藏
ぬ山ぬ次ぬ枯つ庭の森　篤笠
ぬぬぬぬ世ぬ葉ぬ　心非
小坊ぬ　荷乙
静ぬ除日ぬ　車両
ふ二の山ぬ　孤山

水際の芋葉くさかる田にかゝ　鞠塢
野ゝ辺や田川よゆきるみの音　其梨
五月田の広間持ゝる蓮の花　九朴
田植頃ういゝしくや呼ゝる　春葦

草菴

白鷺はく等もあれ炉焚き　一峨
父母よ先ゝ更衣　氷瓶
辻番の茅ぶきや小半夜　應〻
水の泡よ藜生え芋ゝ粥ゝ　碩齋

俳諧ゝ小屋ぶきゝ雨　對山
ゝ俳や茅ぶきゝ茅ぶきゝ　仙骨
きゝみゝれや白ゝ花ゝ　諫圃
ゝ月ゝ遠ゝ月出ゝ　春樹
柳ゝ芋ゝ芋ゝ丘の原ゝ　護物
沮畠や雀接穂切ゝ　柏舟
谷ゝけや空ゝつゝ八中　寥松
皂角ゝ蔭ゝみゝて重の枝　芝山
元彩ゝ蔭ゝ芋ゝ　屠龍公

近像の釋氏を請法延

淋しきは是やこの行基
名を訪へと世間の梅や秋の風　旭波
秋萩や人なき庭を書捨て　帰来
住吉の岸あらかしてかつらき　梅仁
小田原北條氏の家の時　南井
静かなり五仙の仏像系　逸帆
きさらぎや四五日風に昔もの　之丶
雑木や杉風の茶の獨旅　珍齋
　　東甫

清水寺　波濤
夏衣碑の碑　邦子
春かすみ新しき北陸のさくら　其阿
曉の眼の移り行く　鬼林
移住と記しまもなり　無染

和調亭幾多會　三句

山彩や杉本に住む　郁梅
秋萩や日北多寺　白圭
秋の菊　東子

朝の雲に寒さのも深世界　語竹

灌仏の茶菓子物出るうら　山朝

吟ぜる雲の珠数の数や鶏の音　廿月

数あまたはかなく消しき拾ふ　野遊

ぎりぎり草に掛金ぶ菴の邪　夫山

うら歌

夕雲に空もかすかに秋の雲　鯉夫

潮の音さき平らかなる空　子行

月山のやうに時

菴ぶ屋の空を見ぬて秋の立　如竹

雲に夜ぬ庵ぶ見ぬ掛ぶ　洗志

ぶに月傳の物乃青　青涼

芦の穂や名残り残る月に乳　日照

こり月と背ぶ見ぬや柿屋　呂律

己ら月に雲ぶ見ぬ式雲の邪　三千雄

出閨に相手に入ら男小雨かぶ　遠蓋

ぶ長ぶ見ぬ空に秋ぶ　桀只

拜殿に雲に月ぶ見ぬ流ぶ　露月

蔦生ひ繁り旭あたる
日の光りに白紙のなる　青牛
醫師佐藤氏の家に高中を訪ふ　如弓
接拶　國村
芋あのくきに通ひて却て
接ちら咲き蕗も嘉祝の御　五樓
寺社あも訪ふ菊見て廊下　金河
村の長小さき寺社の路　中茂
黄ばむ寺小路や夏の夕　玄来

我が笠に仰ぐ笠の柳　葛二
棒に干す母屋に張る蚊帳　二柳
引き込む夜の夜の夜の水　梅之
一茎ちらす蓑虫風よ　李喬
杉風ひとつ吹き　形眠
潮来沼眺望
秋空一面の蓮の上　花暁
つゆ晴れ間の山　唐兆
雑蕎の白花の畑　芳水

夕飯の音あまちかく一声の郭公
郭公や伊勢ちかき茅屋
　森の夢と送られぬるに
きりぎりす落せや花の行くゑ
花とあるて水行の春色もまた
蛍の絵漆の桶水ちかく
庭火ちらちら藤の棚
ちるや梅をのこす張出
出のうぶすな山ぶしはや青嵐

可良久
李川
五渡
除松
氷佳
邑子
素頂
たかを

門先の菊ぶしの秋くれぬ
庭畑の蕎麦を培乃恵

耕齊
芝堂

山居

人参は色ちかく夜の秋なるを
夢ぶしもはるかとて春の一紫
芋や宝ぶしの芋の
ちるや人参の
山彩や土砂折ふも梅の朝
芋ふ畠と老人妙を前

安房
杉長
上總
郁賀
省我
槐里
下總
素迪
至長

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

孤立集著

[illegible]　李峰
[illegible]　如柳
[illegible]　桂丸
[illegible]　蒼峨
[illegible]　茶彦
[illegible]　夜叉
[illegible]　普記
[illegible]　北尼

押付一日和[illegible]の月　廣陵
持[illegible]　雨塘
[illegible]風や眼失[illegible]　去雲
田[illegible]上[illegible]　竹加
[illegible]極[illegible]月夜　李尺
一[illegible]日[illegible]　松江
[illegible]戸に行[illegible]　渾堂
[illegible]大根[illegible]　輅齊
[illegible]　左襄

常陸

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

汲風や菊世ゝあさ色やせん　近江　烏頂

寛永寺にて

雨降て一茎よとれ色に浮草　可盈

蓮くさ生て物ものゝ咲る花の上　千影

戸の明て物ゝ入る月夜かな　志女

宮殿橋く金魚もあるて猫の恋　春雄

時雨さら無言ゝ無言ゝを待きり　文常

新のわよ所同俳号　于當

汲しら少新色失く消ゝ　飛騨　儲央

集ゝ一茎ゝ花ゝ新小田妙

かつちゝてから物ゝ待きり　善光寺　艸司

空二ゝるもかゝゝ穴蛙新ゝ　汝蘭

蛙蛙や乾ゝて日傘　田今空　杜厚

夏ゝはやきゝ出ゝ栃の新　呂吹

観蓮　可厚

白夜ゝ色ゝ色ゝ咲ゝ蓮の花　素驥

咲ゝ留一咲も少次かゝ白　雲帯

紫紙交ゝや茄ゝかこら艸　如毛

日ぬ暮くれんのせ雨ふり　若人
相ぬ暮ぬと洩ぬ月の大ぬ　微席
ぬぬ自ぬ咲ぬ切ぬ峯ぬ杉　武曰
ぬぬ住ぬ寺ぬ解ぬ門ぬ雪　一系
日ぬ入ぬちぬぬ百二ぬ九ぬ　上毛　月鴻
遠里ぬ杉ぬ霞ぬ鶯ぬ面　采室
暗立ぬ世ぬうぬ海面人ぬ門　玄く
ぬつぬぬ雛ぬ二ぬ小ぬ蛤　壷半
沢蟹ぬ焼ぬ鶯ぬ雪解ぬ　阿兮

白ぬぬ癖ぬ生ぬ雪
山ぬぬ霧ぬ世面ぬ花ぬ母　茅麿
枯ぬぬぬぬぬ井ぬ　車隣
雪暗ぬ咲ぬうぬ花　紅碩
星流ぬ小鶯ぬ夜ぬ　下毛　康太
鶯ぬぬぬ世ぬ人　雉尾
船の長人ぬ面ぬ　和井
立鶯ぬぬ花ぬ　官鯉
四何ぬ日晴ぬ合歓ぬ　麦茂
ぬぬ紀　あぬ紀

初月や風ふき渡る　常　　吳竹

静かなる日和ゆゝしく秋の蝶　　浅見

五器一つ食回しうつす月の影　　凡鳥

雨晴れ間や芒を結ぶ水　　素考

小畠を打つる清水流れ来　　星谷

翌ゆゝしくうつくしく多の山　　北岱

本道寺滞留

嘉祐の題詩の上を弱る峠　　仙台　百非

十ヶ月つゝも柿の渋抜ちそりい　　日人

後撰の乃紙下侍や東山　　玄圃

沢深の之隅を蛍の飛ぶ　　二晶

蛍火に蘆の新芽の芽吹き　　月哉

池中を流れ流れ淋しく微月　　鬼氣

鶯や砂川ふかの卯月雨　　士由

宝蓮寺を西ゝを西ゝ寺　　青良

雲ゝ月を西ゝ雲ゝ芒吹　　志柳

旅しゝ流れ流れる夜の雨　　東麿

扉枝も柿ゝ枝ゝ夜之月　　世竹

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

川骨や水と流す日数哉　馬年
短夜の月やのらくく井の蛙　柳村
蚊の知らぬ蕎や猫又月すさま　江三
揚灯籠俤くく門ゝの影　路人
忘猫は猫とかくも寄ぬ金屏風　雄渕
孤学も系図の虱も秋乃秋　きく女
新くもと咲くく見たくく菊のもと　徒女
嘉の字は月数とくく寂　亀丸

羽黒山掃定

清くく嘉を知らぬ南谷　醒齊
廉ならぬ石橋井の名は都雪　十竹
蓮一茎湯や嫌しきこの数　乙二
苔はくと里の水のかつて嘉くり　冥々
号や二人くくの押裏の口　五陵
一日を寄く二りは秋乃月　芳齊

有知思

風猶くく南を知らく郭公　子人
白嘉雲形も屑さるの初くく　ゑの安

曙をうれしく寒さらぬ春の雨　雨考
小雨ふる春の野辺や畠　芋ふる　うつゝ
雪ぬけ戸や裏かぶるぬけ　仙彦
山秋を見こゝろはやし天の川　撫渕
隠居あれ鶯ゝ落しに松ふるる　夢南
立ぬ能舞台の木　南鶴
よいかぜ風吹揚げ立　紫山
もゝ芝南北風吹西ゝ　松人
風や春うらぬ寒ゝ寒ぬる　竹二

三春

霧晴る屋根ぬれ雫ゝ月晴　帆中
眼ゝ鼻ゝ三月ふるや柳柳　俳仏
白川や西北の方ゝ見ゝる　朴齊
独ぬ色ゝ春ゝ白ゝ白ゝ　嵐叟

相馬

深ゝ雪ゝ高ゝ足ぬ　路柱
市中を春ゝ月足の絵　鬼風
曙ぬ上ゝ山　湖秋
竹ゝ高ゝ春ゝ山　如髪

會津

大刀持ゝ春ゝ　月歩

秋はくらやいとゝ多くよ数かゝる　阜雄
我ゝ蕃社茅ぶきちゝ繁月　双竹
茅ぶき戸や皆うゝゝぬ氷ゝ海　楚雀
ゆけるから西の方ゝ秋の山　馬令
おかなかゝ蔡ゝ花ゝ屋敷ゝ　左城
灯火やにのまゝ涼しき物の数　阜呂

文政乙酉五月十二日没

もゝのゝ中ゝ寂枝もゝかさゝゝゝ　南部　平角
松のゝ芝ゝゝ花ゝ時ゝ当ゝ　楚山

雉ゝゝゝのゝを失いゝゝ岡　五松
うかゝゝゝゝ茅ゝを行ゝ茅ゝ中　寛兆
雀ゝゝ茅ゝ貧ゝ過ゝ二月ゝ　蘭溪
茅ゝゝ正月ゝゝ行ゝゝゝゝ　彦貫
月のあゝゝゝ時ゝ雪ゝ千ゝ　淡水
年ゝゝ体ゝゝゝゝ芝ゝ茅ゝ　子龍
江の浦ゝ茅ゝゝ惜ゝ裕時　淇水
玉川のゝ波ゝ秋ゝ花茅　北溟
行秋やらゝ茅ゝ咲ぬゝ秋

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

我う物しくまに御しそう嬢の髪　広頂義
足らやとちらし向こもも茶は茶　沉弓

清涼さるれ寺に泉をそそぎ
行きしくしく分る立ち松の根の下　谷雄
茶をそ八百新しくなる茶の茶　南弓
白牡丹新しく蕪赤よ咸ゆくり　英里
茶は新しく茶の所らしく地小清く　春岱
多長因樹ある撰茶の庫ゆ夕　聿修
故き火や茶をくそ信一下庫入　百歳

風新しき月新茶つよ烟代守　松澤
如中なる玉日枝の蕪や蕪茶蕎　千秋
風茶果地茶果ゑ茶よ夕茶　白鵬
七曲中ゆ茶そう清き清ゆ　文里
湖へ茶句ゆ咲しゆ茶ん茶　蝶巣
水多地巣よ風生茶漁舟　錦水
茶ゑ云く海ゆ茶ゆ茶の連　机月
茶咲中ゆ茶へくち陸なう山桜　吐月
仕合地茶ゆ家や如中の茶　如水

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

雪ふる寺見の梅や土筆　直峩
春雨しとしと嘘をしかりけり　白鳩

獨居

嵐峡の仙人や炭ふ屑　箱館　布席
蓬莱に借しきるかんなる　弘前　玉之
明月や人を見る居る都鳥　秋田　御風
却て貴を打ぬ工夫の花ぐもり　五瓢
夕顔の却て住出志ぬ秋　野松
掘ふ見じ信濃世をすみた川　巴陵

縮緬雲新月も伸るや却て目　古翠
月あれ荒川波ふや家九口　咫雲
云事は面白やさ鳴く　石嶺
茅ふ戸も信ふ人よりや紫苑咲　素岑
嘗乃事稱持ふ新蕎の粉　槙露
我ふ出ふ雲ふ却て鳴ふ居　柳〻
咲のなれふ月新やは梅の香　乙負
月まやや梅元の新　其山
雲答ふ事ふ雲ふ白新のきりぎす　宇喬

降る中に雨も遠くなりぬ　乙鳩

雨の音に結ひかゝる子の笠　不材

子に寄し人の畠の五形あり　桃語

渓流を隔る人を待つ年の暮　杜園

時立や山うゝ雪を押てゆく　淇竹

一ト筋の町中へ出る清水かな　驟岑

吹風に足元冴る西方早苗小　凌洲

行くつゝ指す宿や相一茶　太橋

色に物形角寄るすゝきかな　稲丸

湯殿山籠

浩られぬ方より人形年ゝ寄　宵海（最上行人）

心より一ト夜降りそ雨　左洲

旅窠病中

鶏待を力に色表を絞る　亀年

もゝ日や翌日忘れし絃瓢　瑞元

雨乞ひ立ち立ち雲の峯　文阿

地ならしや夕焼く赤瓜の雲　素風

新戸出を瓜の白ひや市北中　舎月

[illegible]

守月

[illegible]　一湖

人[illegible]　寿山

[illegible]　其行

[illegible]　素山

[illegible]　思山

[illegible]　嗽石

[illegible]　楓二

[illegible]

二丘

世[illegible]　此由

[illegible]　塗山

[illegible]　吐雲

初[illegible]　稲舟

[illegible]　此流

日[illegible]　如雪

[illegible]　柳笑

加賀[illegible]　境水

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

[illegible]

蓮

[illegible]の[illegible]の[illegible]く伸ぶる儒丁[illegible]

有井

[illegible]士[illegible]唄[illegible]や揚[illegible]

艸雨

畑[illegible]の[illegible]

桑雨

[illegible]や水[illegible]

平車

[illegible]の[illegible]口[illegible]

以后

[illegible]

稲洲

須弥山の形[illegible]

泰々

巣兆佛の追福を

[illegible]の夜

淋山

[illegible]の[illegible]

[illegible]川舟中

加賀　箕青

山村の[illegible]空や土[illegible]

雪丸

[illegible]角大師

越中　乾夫

[illegible]

[illegible]

越後　石海

山[illegible]

幽嘯

[illegible]

丹波　武陵

夕[illegible]

蕙ゝ寒れて庵もや背戸の土　但馬　鬼洞

初茅ゝ出ゝやゝ小野の秋　出雲　三津

鵜猪蕎小江川赤し今年の秋　吉備　花叔

おとゝゝ鶏ゝふゝもや菊菊　閑齊

歳一万

七浦も掃や千ゝ蕎れ煤埃　安藝　玄蛙

霧ゝりや一雨ゝ一雨ゝ　延央

柳ゝゝ世ゝ毎ゝ毎ゝ　阿波　鳶老

山里や霜ゝ月ゝ月ゝ　鷗里

筑前　四軒

長崎　仙芝

肥後　仙斧

三考

日向　巌冬

薩摩　真彦

琴洲

オク　且ゝ

又ゝ鶏ゝ鶏ゝ稲ゝ秋ゝ夕ゝ郷

千ゝふゝ付ゝ寒ゝ寒ゝ

菊ゝ菊ゝ寒ゝ寒ゝ日ゝ風ゝ

百合ゝゝ力ゝ寒ゝ

鶏日ゝ日ゝ月ゝ月ゝ

栄ゝ彩ゝ寒ゝ寒ゝ初ゝ

ゝ海ゝ氣ゝ寒ゝ泊ゝ

ゝゝゝゝ七ゝ梅の香

麻糸の足袋や伝吉翁　竹邦

老ふるもを蓑に踏れぬ淋しさ　淋山

もれ山人に漏んさやかなる　信濃　永木

是かとに根ゑ[illegible]紙数橋　京　風也

軒ゑよ仏に本居を後の月　兵庫　桐栖

芭切の葉ふもあるこゑや秋の蔦　相模　洞し

物影と一つに入るや月の前　遠江　順齊

眼のさめしもれ淋しき食ぶ　近江　禾佛

涼しやと云せもあるく藪路ぶ　春船

獨妙様師の移徙歌をよみて

大津よりこゑ蓑金等ゑ月数ぶ　尾張　東陽

尻張りなるや宮もの池の芹　武蔵　へく麿

裏白もうらぶれもの家宮ぶ　詠帰

秋の田も刈ぶしのるや寺の森　碩布

我秋のもうり結ぶ日初の面　梅香

蓑宮よ蔦四五りもの赤ぶ　白児

初宮や馬ゑ出ゑるも黄乃丈　賤子

如味号のもつ巻ぶ五月雨　野蝶

蓮咲や市堂名づけまく彩らまき　園屋の雲

花ゆゑを迎へ寒れ入会佛ゆゑ　ちりの義　三巴

彩雲多をんぞん酒たやし　一雨

山うぐひす貶ゆ迫ゆを梅宮し　春嶺

神酒切らず切と呼ぶる松魚ぶし　青花

思ふやうふるうまくも唐らし　豆箕

ちらやなほあたらしの茶時後　麦花

宿風の暮よ切や南や谷の梅　観里

鯉隠

燕市　菜蛾　琴女　まさめ　菜山　廬山　輕雨　稲波　歓水

ゆ波よりもれ立汁の和布ぶ

陽炎や云ふ名ぶ都人

英一切うら吹かへす也風

待たや芽ゆを蕚り春の風

卵花ゆを新ゆるゆる柳ちる

葉ゆ立ゆ新ゆ小ぶ

秋風ゆ灯ゆ消ゆ蕚の柳ちる

咲うぐふ眼ゆ生つゆを枇杷の蕚

蕚ゆ蕚ゆるゆうなり咲ゆ

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117
ガラス使用

黎明

蒲生　梅枝

青楓

桃牛

自来

陌雲

秋月

北林

柳翠

菅莪

醉夢

文虹

始一

東里

有圭

国村

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117

ガラス使用

863
117

14214

語らふあま湯なの淋しさ人星のそゝ〜〜
言へる葉もとあやとりこゝ巣地居士の十三回忌
あるあるとりてのまゝ魂をみる国物語り
ゝと居士と回忌あるとゝめをす弟子語を
あるあるのうへの多分とへ会仏をさしけ
みるみひとゝくるゝとゝあるゝ世話を
海芽う京の寺おみるあゝ巣葬の為

丙戌とし秋

国立国会図書館　タイトル『星の林』　請求記号 863-117

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『星の林』 請求記号 863-117

ガラス使用